第２章

要支援認定者 調査

１．調査の概要

（１）目的

要支援認定者の健康や生活の状況と問題点、医療・介護、福祉等に関するニーズ、介護保険制度に対する評価等を把握し、次期介護保険事業計画の策定に資する基礎資料を得ることを目的とする。

（２）調査対象者

平成25(2013)年10月31日時点での要支援認定者のうち、各要介護度から200人ずつ無作為抽出した計400人を調査対象者とした。

（３）調査方法

上記対象者に対して、訪問面接調査を実施した。調査対象者（要支援認定者）本人による回答が難しい場合は、主に介護をしている家族等に回答してもらった。

（４）実施期間

平成25（2013）年11月8日～平成26（2014）年1月31日

（５）調査完了状況

調査完了数：　323票（要支援１：158、要支援２：165）　回収率：80.8%
調査不能理由：本人の拒否 29、家族等の拒否 21、本人が死亡 4、不在 8、住所不明 8、転居 4、その他 3

（６）回答者

「調査対象者（要支援認定者）本人」による回答は92.6%、「本人以外の人」による回答は7.4%であった。本人以外では「配偶者」(8人)や「娘」(既婚:5人、未婚:5人)による代理回答が多かった。

表2-1-1　回答者

対象者本人	配偶者	娘 配偶者あり	娘 配偶者なし	兄弟姉妹	息子 配偶者あり	嫁	その他の親族	その他親族以外	総数
299	8	5	5	2	1	1	1	1	323
92.6%	2.5%	1.5%	1.5%	0.6%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	100.0%

（７）結果の集計に関する注意点

- 本調査では、要介護度ごとの傾向を把握するために、人数が少ない要介護度においても一定の有効回収数が得られるよう、全要介護(要支援)認定者における各要介護度の人数比率とは異なる標本数を割り当てて調査対象者を抽出した（各要介護度から200人ずつを抽出)。
- そのため集計にあたっては、要介護度ごとの回答結果が、実際の母集団（10月31日時点の認定者）の人数比率に応じて全体の結果に反映されるように、ウェイト値を乗じた標本数で集計している（ウェイトバック集計)。

- **ウェイト値の算出方法**

  ウェイト値＝(各介護度の認定者数／各介護度の完了数)×(完了総数／認定者総数)

- **ウェイト値を乗じた(ウェイトバック)後の標本数は、要支援１:201人、要支援２:122人である。**

（注）ウェイト値は少数第7位まで算出している。ウェイト値が整数でないため、ウェイトバック後の標本数も小数点以下を四捨五入した値となっている。そのため、集計によっては総数と合わない場合がある。

	認定者数（10/31時点）	標本数	完了数	認定者数／完了数	ウェイト値	ウェイトバック後の標本数
要支援1	1,256	200	158	7.9493671	1.2736337	201
要支援2	760	200	165	4.6060606	0.7379750	122

【2章「要支援認定者調査」と3章「要介護認定者/介護者調査」の集計を見る際の注意事項】

・集計にあたっては、要介護度ごとにウェイトをつけたウェイトバック集計を行っている。上述のように、ウェイト値は整数でないため、ウェイトバック後の標本数も小数点以下を四捨五入した値となっている。そのため、集計によっては総数と合わない場合がある。
・調査結果の回答比率(%)は、ウェイトバック集計後の数値である。
・回答比率は小数第2位を四捨五入しているので、合計が100.0%にならない場合がある。

２．要支援認定者の属性（注）

- 調査回答者の属性を表 2-2-1～表 2-2-8 に示した（注：調査対象者の代わりに別の人が代理で回答している場合は、本来の調査対象者の属性を示している）。
- 男女比は概ね 3:7 で女性が多い。年齢構成は 80 歳以上が 7 割を占めていた。
- 世帯構成は、「単身世帯」が 42.7%、「夫婦二人世帯」が 18.9%であった。介護度別では、要支援２の方が要支援１よりも単身世帯の割合が高く、要支援２の半数弱はひとり暮らしであった。世帯員数は「１人（ひとり暮らし）」42.7%、「二人」29.4%、「三人以上」27.6%であった。
- 居住場所は「自宅（親戚宅も含む）」という人が 96.9%であったが、「有料老人ホーム」も 1.4%いた。要支援 1 では「有料老人ホーム」が 2%いた。
- 住居は「一戸建ての持ち家」に居住している人が最も多く（64.7%）、次いで「公営住宅」18.9%であった。要支援２では「持ち家・戸建て」の割合が低く、「公営住宅」や「賃貸住宅」の割合が要支援１よりも高かった。
- 居住地域は「新川 1,4-6 丁目、中原」や「下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1 丁目」の住区に住んでいる人が多く、「井の頭」地域は少なかった。
- 所得段階は「第 2 段階」が最も多く 25.4%を占めていた。

表2-2-1　要支援認定者の性別

	人数	男性	女性
総　数	323	31.7%	68.3%
要支援1	201	32.8%	67.2%
要支援2	122	29.5%	70.5%

表2-2-2　要支援認定者の年齢階級別

	人数	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～90 歳	90 歳以上
総　数	323	6.4%	6.9%	17.0%	30.9%	25.3%	13.6%
要支援1	201	5.0%	6.5%	13.4%	36.8%	25.9%	12.4%
要支援2	122	8.2%	8.2%	23.0%	21.3%	24.6%	14.8%

表2-2-3　要支援認定者の世帯構成

	人数	単身世帯	夫婦二人世帯	子供と二人世帯	二世代（子と同居）	三世代（子･孫と同居）	その他
総　数	323	42.7%	18.9%	7.4%	13.9%	12.7%	4.3%
要支援1	201	40.0%	19.5%	7.0%	14.0%	14.0%	5.5%
要支援2	122	47.2%	17.9%	8.1%	13.8%	10.6%	2.4%

表2-2-4　要支援認定者の世帯員数

	人数	１人	２人	３人以上	無回答
総　数	323	42.7%	29.4%	27.6%	0.3%
要支援１	201	39.8%	30.3%	29.4%	0.5%
要支援２	122	47.5%	27.9%	24.6%	0.0%

表2-2-5　要支援認定者の居住場所

	人数	自宅 (親戚宅を含む)	有料老人 ホーム	高齢者向け 賃貸住宅	養護･軽費 老人ホーム、 ケアハウス	その他
総　数	323	96.9%	1.4%	0.6%	0.2%	0.8%
要支援１	201	96.0%	2.0%	0.5%	0.0%	1.5%
要支援２	122	97.6%	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%

表2-2-6　要支援認定者の住居形態

	人数	持ち家 （一戸建て）	持ち家 （分譲ﾏﾝｼｮﾝ等）	公営住宅	賃貸住宅	その他
総　数	323	64.7%	6.2%	18.9%	6.5%	3.7%
要支援１	201	70.1%	4.5%	16.4%	5.0%	4.0%
要支援２	122	55.7%	9.0%	23.0%	9.0%	3.3%

表2-2-7　要支援認定者の住居地域

	人数	下連雀 1-4 上連雀 1-5	下連雀 5-9 上連雀 6-9 野崎 1	井の頭	牟礼 北野 新川 2-3	新川 1,4-6 中原	野崎 2-4 井口 深大寺	大沢
総　数	323	15.7%	18.8%	9.8%	17.5%	19.7%	11.7%	6.8%
要支援１	201	16.3%	17.7%	10.8%	18.2%	22.2%	8.4%	6.4%
要支援２	122	14.8%	20.5%	8.2%	16.4%	15.6%	17.2%	7.4%

表2-2-8　要支援認定者の所得段階

	人数	第１	第２	軽減 ３	第３	軽減 ４	第４	第５	第６	第７	第８	第９	第 10	第 11	第 12
総　数	323	6.5%	25.4%	8.4%	6.5%	12.1%	6.8%	4.0%	9.3%	15.8%	2.2%	0.6%	0.9%	1.5%	6.5%
要支援１	201	5.0%	23.4%	8.5%	7.0%	9.5%	7.5%	5.0%	9.5%	18.4%	2.5%	0.5%	1.5%	2.0%	5.0%
要支援２	122	9.0%	28.7%	8.2%	5.7%	16.4%	5.7%	2.5%	9.0%	11.5%	1.6%	0.8%	0.0%	0.8%	9.0%

３．介護・医療に関するニーズ

１）日常生活動作能力（ADL）と援助者

- 「歩行」「食事」「着替え」「入浴」「排泄」の5項目の日常生活動作（ADL）について、介助を必要とする人の割合を調べた。介助を要する人の割合が最も高かったのは「歩行」で、一部または全面的な介助を要する人が12.7%いた。
- 歩行に手助けを要する人（41人）に誰が手助けをしてくれるか質問したところ、「同居家族」50.9%や「別居親族」20.6%が多く、家族・親族以外では「介護保険のホームヘルパー」9.0%、「入居施設の職員」8.0%という状況であった。歩行に手助けを要するにもかかわらず、手助けしてくれる人が「誰もいない」という人が15.2%いた。
- 歩行以外のADL項目で介助を要する人の割合は、「食事」0.6%、「着替え」3.7%、「入浴」10.8%、「排泄」2.5%であった。
- 普段の生活の様子は、「自分でバスや電車を使って外出するか、あるいはそれ以上に活発である」という人が39.3%、「家庭内で自分のことはできるが、外出は隣近所まで」という人が35.9%であった。要支援１では「バスや電車を使って外出」できる人が半数程度を占めていた。
- 回答状況に基づいてADL障害の重症度を分類した結果、「ADL障害なし」が78.3%を占めた。「ADL障害なし」の割合は、要支援１では86.1%、要支援２では65.6%であった。

表2-3-1　歩行

	人数	一人で歩ける（杖を使わない状態）	杖などがあれば一人で歩ける	物につかまれば（介助されれば）歩ける	ほとんど歩けない、まったく歩けない	無回答
総　数	323	43.0%	44.0%	11.5%	1.2%	0.3%
要支援1	201	52.7%	39.8%	7.0%	0.5%	0.0%
要支援2	122	27.0%	50.8%	18.9%	2.5%	0.8%

表2-3-2　歩行の手助けをしてくれる人　（複数回答）

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー	ヘルパー以外の介護保険サービス	全額自費のサービス	入居施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人（近所の人以外）	その他	誰もいない
総　数（41 人）	50.9%	20.6%	9.0%	0.0%	0.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.8%	15.2%

表2-3-3　食事

	人数	ひとりで普通に食べられる	調理等の工夫で一人で食べられる	一部介助が必要	全面的に介助（経管栄養を含む）	無回答
総　数	323	92.5%	6.8%	0.6%	0.0%	0.0%
要支援１	201	95.0%	4.5%	0.5%	0.0%	0.0%
要支援２	122	88.4%	10.7%	0.8%	0.0%	0.0%

表2-3-4　着替え

	人数	普通にできる	ひとりで何とかできるが時間がかかる	一部介助が必要	全面的に介助が必要	無回答
総　数	323	70.5%	25.8%	3.4%	0.3%	0.0%
要支援１	201	77.5%	19.5%	3.0%	0.0%	0.0%
要支援２	122	59.0%	36.1%	4.1%	0.8%	0.0%

表2-3-5　入浴

	人数	普通に入れる	ひとりで何とか入れる	一部介助が必要	全面的に介助が必要	無回答
総　数	323	57.9%	31.3%	7.1%	3.7%	0.0%
要支援１	201	67.7%	24.9%	5.0%	2.5%	0.0%
要支援２	122	41.8%	41.8%	10.7%	5.7%	0.0%

表2-3-6　排泄

	人数	普通にできる	ひとりで何とかできる	一部介助が必要	全面的に介助が必要	無回答
総　数	323	77.4%	20.1%	2.2%	0.3%	0.0%
要支援１	201	86.1%	12.4%	1.5%	0.0%	0.0%
要支援２	122	63.1%	32.8%	3.3%	0.8%	0.0%

表2-3-7　ふだんの生活の様子

	人数	バス・電車を使って外出	外出は近隣まで	外出しないが身の回りのことはできる	身の回りのことはできるが寝たり起きたり	身の回りのこともできず寝たり起きたり	ほとんど寝たきり	無回答
総　数	323	39.3%	35.9%	16.7%	4.0%	3.1%	0.6%	0.3%
要支援１	201	49.3%	33.8%	10.9%	3.0%	2.0%	0.5%	0.5%
要支援２	122	23.0%	39.3%	26.2%	5.7%	4.9%	0.8%	0.0%

表2-3-8 身体的障害の重症度

	人数	障害なし	軽度	中等度	重度
総　数	323	78.3%	14.2%	5.9%	1.5%
要支援1	201	86.1%	9.0%	4.5%	0.5%
要支援2	122	65.6%	23.0%	8.2%	3.3%

注） 重症度の分類方法は、以下の表【身体的障害の重症度分類の基準】を参照.

● 身体的障害の重症度分類の基準

重度	次の1項目以上に該当する。 歩行･････････････ほとんど歩けない、まったく歩けない 食事･････････････全面的に介助（経管栄養を含む） 排泄･････････････全面的に介助が必要（常時おむつをしている場合を含む） 日常生活状態･･･ほとんど寝たきり、あるいは、まったくの寝たきり
中度	「重度」以外で、次の1項目以上に該当する。 食事･････････････食べる時に一部手助けが必要 着替え･････････････全面的に介助 入浴･････････････全面的に介助を必要とするか、入浴できないので体を拭くのみ 排泄･････････････便器に腰かける時、または便器の用意・後片づけ等に一部介助が必要 日常生活状態･･･日中は寝たり起きたりで、身の回りのこともほとんどできない
軽度	「重度」「中度」以外で、次の1項目以上に該当する。 歩行･････････････物につかまれば歩ける、介助されれば歩ける 食事･････････････食べる時に一部手助けが必要 着替え･････････････ボタンかけなど、一部手伝わなければ着替えられない 入浴･････････････浴槽の出入りや体を洗うのに一部介助が必要 日常生活状態･･･身の回りのことは何とかできるが、日中でも寝たり起きたりの生活である
なし	上記の項目のいずれにも該当しない

注） 分類基準の出典は、『高齢者の家族介護と介護サービスニーズ』東京都老人総合研究所社会福祉部門編(1996)を参照.

２）手段的日常生活動作能力（IADL）と援助者

- 「部屋の掃除」「洗濯」「食事のしたく」「買い物」の4項目の手段的日常生活動作（IADL）について、介助を必要とする人の割合を調べた。介助を要する人の割合が高かったのは「部屋の掃除」と「買い物」で、一部または全面的な介助を要する人はそれぞれ48.2％と46.9％であった。
- それ以外のIADL項目について一部または全面的な介助を要する人の割合は、「洗濯」29.9％、「食事のしたく」35.6％であった。
- 「ケガや事故がないように、または急に体調が悪くなった時などのために誰かからの見守りが必要か」については、「常に必要」という人が10.5％、「時々、必要」は27.2％であった。
- これらの項目について一部または全面的な介助を要する人（見守りについては時々または常に必要な人）に、誰から手助け（または見守り）をしてもらっているか質問した結果、「部屋の掃除」は「介護保険のホームヘルパー」にしてもらっている人が47.0％と最も多かったが、それ以外の「洗濯」「食事のしたく」「買い物」「見守り」は、「同居家族」がしている割合が6割前後と高かった。
- 一部または全面的な介助を要する状態（見守りについては時々または常に必要な状態）であるにもかかわらず、手助け（または見守り）をしてくれる人が「誰もいない」という人の割合が高かったのは、「見守り」6.0％であった。それ以外のIADL項目については手助けしてくれる人が誰もいない人は少なかった。

表2-3-9　部屋の掃除

	人数	できる	できるけどしていない	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要	無回答
総　数	323	34.6%	17.3%	26.9%	21.3%	0.0%
要支援1	201	43.8%	18.9%	22.9%	14.4%	0.0%
要支援2	122	19.5%	14.6%	33.3%	32.5%	0.0%

表2-3-10　部屋の掃除の手助けをしてくれる人　（複数回答）

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー	ヘルパー以外の介護保険サービス	全額自費のサービス	入居施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人（近所の人以外）	その他	誰もいない
総　数（156人）	39.8%	8.6%	47.0%	0.8%	4.5%	1.6%	1.8%	0.0%	0.0%	1.8%	1.3%	0.8%

表2-3-11　洗濯

	人数	できる	できるけどしていない	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要	無回答
総　数	323	54.9%	15.1%	15.7%	14.2%	0.0%
要支援1	201	63.9%	18.3%	8.4%	9.4%	0.0%
要支援2	122	40.2%	9.8%	27.9%	22.1%	0.0%

表2-3-12　洗濯の手助けをしてくれる人　（複数回答）

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー	ヘルパー以外の介護保険サービス	全額自費のサービス	入居施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人（近所の人以外）	その他	誰もいない
総　数（96 人）	64.1%	13.4%	17.6%	0.0%	1.5%	2.6%	0.8%	0.0%	0.0%	2.3%	1.3%	0.8%

表2-3-13　食事のしたく

	人数	できる	できるけどしていない	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要	無回答
総　数	323	48.6%	15.8%	16.7%	18.9%	0.0%
要支援1	201	57.2%	16.4%	11.9%	14.4%	0.0%
要支援2	122	34.4%	14.8%	24.6%	26.2%	0.0%

表2-3-14　食事のしたくの手助けをしてくれる人　（複数回答）

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー	ヘルパー以外の介護保険サービス	全額自費のサービス	入居施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人（近所の人以外）	その他	誰もいない
総　数（115 人）	60.2%	14.3%	10.9%	0.0%	6.9%	4.6%	1.8%	1.1%	0.0%	0.6%	9.1%	0.0%

表2-3-15　買い物

	人数	できる	できるけどしていない	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要	無回答
総　数	323	44.1%	8.7%	25.5%	21.4%	0.3%
要支援1	201	52.0%	10.0%	23.5%	14.5%	0.0%
要支援2	122	31.1%	6.6%	28.7%	32.8%	0.8%

表2-3-16　買い物の手助けをしてくれる人　（複数回答）

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー	ヘルパー以外の介護保険サービス	全額自費のサービス	入居施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人（近所の人以外）	その他	誰もいない
総　数（151 人）	56.3%	27.3%	15.5%	1.3%	1.5%	2.2%	0.0%	0.0%	1.0%	1.5%	6.8%	0.0%

表2-3-17　見守り

	人数	まったく必要ない	あまり必要ではない	時々、必要	常に必要	無回答
総　数	323	18.9%	43.3%	27.2%	10.5%	0.0%
要支援1	201	22.9%	46.8%	20.4%	10.0%	0.0%
要支援2	122	12.3%	37.7%	38.5%	11.5%	0.0%

表2-3-18　見守りをしてくれる人　（複数回答）

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー	ヘルパー以外の介護保険サービス	全額自費のサービス	入居施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人（近所の人以外）	その他	誰もいない
総　数（122 人）	57.3%	25.2%	6.9%	0.0%	0.0%	5.4%	0.0%	2.1%	4.7%	1.0%	5.9%	6.0%

３）認知機能障害

- Pfeiffer(1975)のShort Portable Mental Status Questionnaire (SPMSQ)という指標に基づいて、認知機能障害の程度を調べた。オリジナルのSPMSQは10項目から成るが、施設入所でない高齢者に対して不適切な項目（この場所の名前）は除外し、残りの9項目を用いた。具体的には「年齢」「生年月日」「住所」「今日の日付」「今日の曜日」「母親の旧姓」「現在の総理大臣の名前」「前総理大臣の名前」「簡単な計算」のそれぞれについて正しく答えた場合は0点、誤答や答えられない場合は1点を配点し、単純加算して得点化した。3点未満は「認知機能障害なし」、3～5点未満は「軽度」、5～8点未満は「中等度」、8点以上は「重度」とされる。
- SPMSQに基づく結果は、「認知機能障害なし」が78.5%、「軽度」が16.4%、「中等度」が2.7%であった。要支援１と要支援２では、認知機能障害の程度に特に差はなかった。
- 表2-3-8に示したADL障害の重症度と認知機能障害の重症度を組み合わせた類型をみると、「身体(ADL)障害が軽度以下で、認知機能障害も軽度以下」が89.3%、「身体(ADL)障害が中～重度で、認知機能障害は軽度以下」5.3%、「身体(ADL)障害が軽度以下で、認知機能障害は中等度」2.7%、「身体(ADL)障害が中～重度で、認知機能障害が中等度」0.3%という状況であった。

表2-3-19　認知機能障害の重症度

	人数	障害なし	軽度	中等度	重度	不明
総　数	298	78.5%	16.4%	2.7%	0.0%	2.3%
要支援1	185	77.8%	17.8%	2.2%	0.0%	2.2%
要支援2	113	79.6%	14.2%	3.5%	0.0%	2.7%

注）対象者本人が回答している場合のみを対象としている.
認知機能障害の重症度の分類は、Pfeiffer(1975)のShort Portable Mental Status Questionnaire (SPMSQ)に基づいて分類した.

表2-3-20　ADL障害と認知機能障害の類型

	人数	身体(軽度以下) 認知(軽度以下)	身体(中度以上) 認知(軽度以下)	身体(軽度以下) 認知(中度以上)	身体(中度以上) 認知(中度以上)	不明
総　数	298	89.3%	5.3%	2.7%	0.3%	2.3%
要支援1	185	92.4%	3.2%	2.2%	0.0%	2.2%
要支援2	113	84.3%	8.7%	3.5%	0.9%	2.6%

注）対象者本人が回答している場合のみを対象としている.
ADL障害の重症度の分類は、表2-3-8を参照.

４）通院・受療状況

- 要支援認定者の通院･受療状況は､｢通院｣している人が 94.8%と多く､｢往診｣2.5%、「入院・入所」0.6%、「医師の診察は受けていない」2.2%という状況であった。通院・受療状況は要支援１と要支援２で大きな違いはなかった。
- 通院している人に通院時の交通手段と付き添いについて質問した。交通手段は「徒歩」47.1%、「バス・電車」42.4%、「タクシー」35.0%、「自家用車」18.1%であった。徒歩圏の病院に通院している人が最も多いものの、「バス・電車」での通院も４割強と多かった。要支援１と比べると要支援２の方が「徒歩」や「バス・電車」の割合は低く、「タクシー」や「自家用車」の割合が高くなっていた。
- 通院時の付き添いは「誰もいない」が最も多く(58.7%)、次いで「家族・親族」37.3%であった。「ヘルパー」は 2.9%と少なかった。要支援１と比べると要支援２の方が「誰もいない」が少なく、「家族・親族」が付きそう割合は高くなっていた。

表2-3-21　通院･受療状況

	人数	通院している	往診してもらっている	入院･入所している	医師の診察は受けていない
総　数	323	94.8%	2.5%	0.6%	2.2%
要支援1	201	94.1%	4.0%	0.5%	1.5%
要支援2	122	95.9%	0.0%	0.8%	3.3%

表2-3-22　通院時の交通手段（複数回答）

	人数	徒歩	バス･電車	タクシー	自家用車
総　数	310	47.1%	42.4%	35.0%	18.1%
要支援1	192	51.0%	46.9%	31.8%	12.5%
要支援2	118	40.7%	35.0%	40.2%	27.1%

表2-3-23　通院時の付き添い（複数回答）

	人数	家族･親族	ヘルパー	その他	誰もいない
総　数	310	37.3%	2.9%	2.3%	58.7%
要支援1	192	33.2%	2.6%	2.1%	63.0%
要支援2	118	44.1%	3.4%	2.6%	51.7%

５）通院・医療に関する問題

- 過去１年間に病気やケガにもかかわらず、病院や診療所、歯医者に行かなかったことがあった人は、9.3%であった。
- 健康状態について気軽に相談できる医師が「いない」という人は 1.6%で、一般高齢者調査の結果と比べると、かなり少なかった。気軽に相談できる医師への通院時間は、「15 分未満」39.1%、「15～30 分」35.7%で、全体の 75%近くは 30 分以内のところに相談しやすい医師がいた。要支援１と要支援２で、この割合に大きな差は無かった。
- 医療機関について困っていることは「待ち時間が長い・会計が遅い」30.8%で、一般高齢者調査の結果と大きな違いはなかった。「どの医療機関に行ったらよいかわからない」については、一般高齢者調査と比べて、かなり少なかった。

表2-3-24　過去1年間に病気やケガにもかかわらず、病院や診療所、歯医者に行かなかったことがある

	人数	ある	ない	病気・ケガはしていない	不明
総　数	323	9.3%	84.3%	6.2%	0.3%
要支援1	201	10.9%	82.7%	6.4%	0.0%
要支援2	122	6.6%	86.9%	5.7%	0.8%

表2-3-25　気軽に相談できる医師の有無とその医師への通院時間

	人数	15 分未満	15 分～30 分	30 分～1 時間	1 時間以上	いない	不明
総　数	323	39.1%	35.7%	17.4%	2.8%	1.6%	3.4%
要支援1	201	40.0%	35.0%	17.0%	2.5%	2.5%	3.0%
要支援2	122	37.7%	36.9%	18.0%	3.3%	0.0%	4.1%

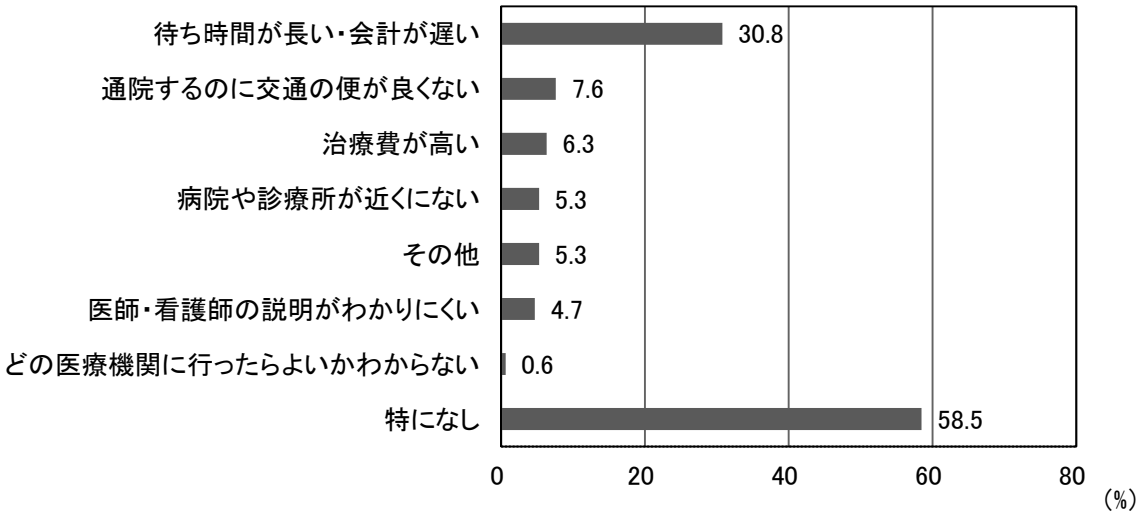

図2-3-1　医療機関について困っていることや不満に思うこと

４．介護保険・福祉サービス等に関するニーズと評価

１）要介護認定

- 認定結果には「非常に満足」21.1%、「わりと満足」51.4%で、要支援認定者の7割強が肯定的に評価していた。
- 介護度別では「非常に満足」の割合は要支援１の方が高く、「全然満足していない」の割合は要支援２の方が高かった。

表2-4-1　認定結果の満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総　数	323	21.1%	51.4%	20.4%	4.0%	3.1%
要支援1	201	24.9%	49.3%	20.9%	2.0%	3.0%
要支援2	122	14.8%	54.9%	19.7%	7.4%	3.3%

２）ケアマネジャー・ケアプラン

- 要支援認定者のうち、ケアマネジャーが「いる」と回答したのは74.0％で、認定を受けているにもかかわらず、ケアマネジャーを利用していないか、その存在を認識できていない人が25％いることがわかった。ケアマネジャーが「いる」と回答したのは要支援１では69.7％、要支援２では81.1％で、要支援２の方がケアマネジャーを利用していた。
- ケアマネジャーがいると回答した人に、ケアマネジャーと連絡を取り合う頻度を質問したところ、「月に1回以上」49.0％、「2，3ヵ月に1回」23.8％、「年に2，3回」12.6％、「それより少ない」12.1％という状況であった。少なくとも月に1回は連絡を取り合っていると認識できている人は、半数にとどまった。連絡を取り合う頻度は、要支援２の方が要支援１よりも若干多い傾向が見られた。
- ケアマネジャーに関する評価を具体的な項目に即して質問したところ、「いつも○○さん（調査対象者）や家族の立場になって、一緒に考えてくれる」「サービスや制度について、わかりやすく説明してくれる」「介護のことについて、いつも相談にのってくれる」については8割前後が肯定的な評価をしていた。一方、「こちらから連絡しなくても、ときどき様子をうかがう訪問や電話をしてくれる」については、肯定的な評価は6割程度であった。
- ケアマネジャーに対する全体的な満足度は、「非常に満足」25.9％、「わりと満足」58.2％で、84.1％が肯定的な評価をしていた。要支援１と要支援２でケアマネジャーに対する満足度に大きな差は見られなかった。
- ケアプランに対する満足度は、「非常に満足」18.6％、「わりと満足」43.8％で、要支援認定者の62.4％は肯定的な評価をしていた。要支援２の方が要支援１よりもケアプランに対する満足度は若干高い傾向が見られた。

表2-4-2　ケアマネジャーの有無

	人数	いる	いない	無回答
総　数	323	74.0%	25.4%	0.6%
要支援1	201	69.7%	30.3%	0.0%
要支援2	122	81.1%	17.2%	1.6%

表2-4-3　ケアマネジャーと連絡を取り合う頻度

	人数	月に１回以上	2、3ヵ月に１回	年に2、3回	それより少ない	無回答
総　数	239	49.0%	23.8%	12.6%	12.1%	2.5%
要支援1	140	43.6%	23.6%	13.6%	15.7%	3.6%
要支援2	99	56.6%	24.2%	11.1%	7.1%	1.0%

注）ケアマネジャーがいると答えた人に質問した.

次ページの表 2-4-4【ケアマネジャーに関する評価】へ

表2-4-4　ケアマネジャーに関する評価　（「はい」と答えた人の割合）

	総数（239 人）	要支援1（140 人）	要支援2（99 人）
介護のことについて、いつも相談にのってくれる	78.2%	73.6%	84.8%
サービスや制度について、わかりやすく説明してくれる	78.7%	75.7%	82.8%
サービスを選ぶ際などに、わからないときや迷ったときなどは的確に判断を下してくれる	77.4%	75.7%	79.8%
こちらから連絡しなくても、ときどき様子をうかがう訪問や電話をしてくれる	63.2%	59.3%	68.7%
ケアマネジャー自身の判断や決定を、強引に押しつけようとする	4.2%	2.9%	6.1%
いつも〇〇さんや家族の立場になって、一緒に考えてくれる	81.2%	82.1%	79.8%
サービスの内容についての不平や不満を聞いてくれる	67.8%	67.1%	68.7%
サービスの内容の変更には、あまり応じてくれない	16.7%	13.6%	21.2%

注）ケアマネジャーがいると答えた人に質問した.

表2-4-5　ケアマネジャーに対する満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総　数	239	25.9%	58.2%	9.6%	2.9%	3.3%
要支援1	140	23.6%	59.3%	10.0%	2.9%	4.3%
要支援2	99	29.3%	56.6%	9.1%	3.0%	2.0%

注）ケアマネジャーがいると答えた人に質問した.

表2-4-6　ケアプランに対する満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総　数	323	18.6%	43.8%	17.1%	4.7%	15.8%
要支援1	201	18.4%	42.3%	18.9%	4.0%	16.4%
要支援2	122	19.0%	46.3%	14.0%	5.8%	14.9%

注）全員に質問した.

３）ショートステイ

- 要支援認定者におけるショートステイの利用率は2.5%であった（要支援１：2.0%、要支援２：3.3%）。
- 利用希望者の割合は、10.8%であった（要支援１：8.4%、要支援２：14.9%）。
- 希望者が利用できている割合は、23.5%であった（要支援１:25.0%、要支援２:22.2%）。
- ショートステイを利用していない人も含めた要支援認定者総数を分母とした場合のショートステイの利用回数の平均値は、年に0.02回であった（要支援１：0.01回、要支援２：0.04回）。
- 要支援認定者総数を分母とした場合のショートステイの利用希望回数は、平均して年に0.49回であった（要支援１：0.44回、要支援２：0.56回）。
- 利用回数の平均値と利用希望回数の平均値を基に算出した「利用希望回数の充足度」は、4.9%であった（要支援１：2.9%、要支援２：7.5%）。
- ショートステイを利用したことがある人に全体的な満足度を評価してもらったところ、「非常に満足」14.3%、「わりと満足」42.9%で、57.2%は肯定的な評価をしていた。

表2-4-7　ショートステイの利用と利用希望の割合

	人数	利用者の割合	利用希望者の割合	希望者が利用できている割合
総　数	323	2.5%	10.8%	23.5%
要支援1	201	2.0%	8.4%	25.0%
要支援2	122	3.3%	14.9%	22.2%

表2-4-8　ショートステイの利用希望回数の充足度

	人数	利用回数平均値(回/年)	利用希望回数平均値(回/年)	充足度（%）
総　数	323	0.02	0.49	4.9
要支援1	201	0.01	0.44	2.9
要支援2	122	0.04	0.56	7.5

注）対象者全体の平均値（ショートステイを利用していない人も含む）を示した(回数が明確でない人は除外).
　充足度は「利用回数÷利用希望回数×100」で算出.

表2-4-9　ショートステイの満足度（利用者のみ）

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総　数	8	14.3%	42.9%	14.3%	0.0%	28.6%
要支援1	4	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%
要支援2	4	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%

４）訪問介護（ホームヘルパー）

- 要支援認定者における訪問介護サービス（ホームヘルパー）の利用率は33.7%であった（要支援１：28.4%、要支援２：42.6%）。
- 利用希望者の割合は、44.7%であった（要支援１：37.8%、要支援２：56.2%）。
- 希望者が利用できている割合は､76.2%であった(要支援１:75.0%､要支援２:77.6%)。
- 訪問介護を利用していない人も含めた要支援認定者総数を分母とした場合の訪問介護の利用回数の平均値は、週に0.47回であった（要支援１：0.34回、要支援２：0.68回）。
- 要支援認定者総数を分母とした場合の訪問介護の利用希望回数は、平均して週に0.75回であった（要支援１：0.60回、要支援２：1.01回）。
- 利用回数の平均値と利用希望回数の平均値を基に算出した｢利用希望回数の充足度｣は、62.9%であった（要支援１：57.7%、要支援２：67.6%）。
- 訪問介護サービスの利用者に全体的な満足度を評価してもらったところ､｢非常に満足｣32.7%、「わりと満足」53.6%で、86.3%は肯定的な評価をしていた。

表2-4-10　訪問介護の利用と利用希望の割合

	人数	利用者の割合	利用希望者の割合	希望者が利用できている割合
総　数	323	33.7%	44.7%	76.2%
要支援1	201	28.4%	37.8%	75.0%
要支援2	122	42.6%	56.2%	77.6%

表2-4-11　訪問介護の利用希望回数の充足度

	人数	利用回数平均値(回/週)	利用希望回数平均値(回/週)	充足度（%）
総　数	323	0.47	0.75	62.9
要支援1	201	0.34	0.60	57.7
要支援2	122	0.68	1.01	67.6

注）対象者全体の平均値（訪問介護を利用していない人も含む）を示した(回数が明確でない人は除外).
充足度は｢利用回数÷利用希望回数×100｣で算出.

表2-4-12　訪問介護の満足度（利用者のみ）

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総　数	110	32.7%	53.6%	11.8%	0.9%	0.9%
要支援1	57	33.3%	57.9%	8.8%	0.0%	0.0%
要支援2	53	32.1%	49.1%	15.1%	1.9%	1.9%

５）通所サービス（デイサービス・デイケア）

- 要支援認定者における通所サービス（デイサービスやデイケア）の利用率は31.8%であった（要支援１：27.2%、要支援２：39.3%）。
- 利用希望者の割合は、38.2%であった（要支援１：32.3%、要支援２：47.9%）。
- 希望者が利用できている割合は､83.1%であった(要支援１:84.6%､要支援２:81.4%)。
- 通所サービスを利用していない人も含めた要支援認定者総数を分母とした場合の通所サービスの利用回数の平均値は、週に0.44回であった（要支援１：0.30回、要支援２：0.67回）。
- 要支援認定者総数を分母とした場合の通所サービスの利用希望回数は、平均して週に0.67回であった（要支援１：0.49回、要支援２：0.97回）。
- 利用回数の平均値と利用希望回数の平均値を基に算出した｢利用希望回数の充足度｣は、66.0%であった（要支援１：61.1%、要支援２：69.5%）。
- 通所サービスの利用者に全体的な満足度を評価してもらったところ、「非常に満足」41.2%、「わりと満足」48.0%で、89.2%は肯定的な評価をしていた。

表2-4-13　通所サービスの利用と利用希望の割合

	人数	利用者の割合	利用希望者の割合	希望者が利用できている割合
総　数	323	31.8%	38.2%	83.1%
要支援1	201	27.2%	32.3%	84.6%
要支援2	122	39.3%	47.9%	81.4%

表2-4-14　通所サービスの利用希望回数の充足度

	人数	利用回数平均値(回/週)	利用希望回数平均値(回/週)	充足度（%）
総　数	323	0.44	0.67	66.0
要支援1	201	0.30	0.49	61.1
要支援2	122	0.67	0.97	69.5

注)対象者全体の平均値(通所サービスを利用していない人も含む)を示した(回数が明確でない人は除外).
充足度は｢利用回数÷利用希望回数×100｣で算出.

表2-4-15　通所サービスの満足度(利用者のみ)

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総　数	103	41.2%	48.0%	8.8%	0.0%	2.0%
要支援1	55	40.0%	43.6%	14.5%	0.0%	1.8%
要支援2	48	42.6%	53.2%	2.1%	0.0%	2.1%

６）訪問看護

- 要支援認定者における訪問看護サービスの利用率は1.5%であった（要支援１：1.5%、要支援２：1.6%）。
- 利用希望者の割合は、9.7%であった（要支援１：7.5%、要支援２：13.2%）。
- 希望者が利用できている割合は、15.2%であった（要支援１:18.8%、要支援２:11.8%）。
- 訪問看護を利用していない人も含めた要支援認定者総数を分母とした場合の訪問看護サービスの利用回数の平均値は、月に0.05回であった（要支援１：0.04回、要支援２：0.06回）。
- 要支援認定者総数を分母とした場合の訪問看護サービスの利用希望回数は、平均して月に0.30回であった（要支援１：0.31回、要支援２：0.29回）。
- 利用回数の平均値と利用希望回数の平均値を基に算出した「利用希望回数の充足度」は、15.4%であった（要支援１：12.3%、要支援２：21.1%）。
- 訪問看護サービスの利用者に全体的な満足度を評価してもらったところ、「非常に満足」20.0%、「わりと満足」80.0%で、利用者が少ないものの評価は高かった。

表2-4-16 訪問看護の利用と利用希望の割合

	人数	利用者の割合	利用希望者の割合	希望者が利用できている割合
総　数	323	1.5%	9.7%	15.2%
要支援1	201	1.5%	7.5%	18.8%
要支援2	122	1.6%	13.2%	11.8%

表2-4-17 訪問看護の利用希望回数の充足度

	人数	利用回数平均値(回/月)	利用希望回数平均値(回/月)	充足度（%）
総　数	323	0.05	0.30	15.4
要支援1	201	0.04	0.31	12.3
要支援2	122	0.06	0.29	21.1

注）対象者全体の平均値（訪問看護を利用していない人も含む）を示した(回数が明確でない人は除外).
充足度は「利用回数÷利用希望回数×100」で算出.

表2-4-18 訪問看護の満足度（利用者のみ）

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総　数	5	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%
要支援1	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
要支援2	3	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

７）その他の介護保険・福祉等サービス

- その他の介護保険・医療保険等のサービスのうち、利用率が高いのは「住宅改修費の助成」33.0%、「福祉用具の貸与・支給」26.0%であった。介護度による違いはさほど大きくはなかったが、「福祉用具」に関しては要支援１の利用率は20.4%であるのに対して、要支援２の人では35.2%と、利用率が高かった。
- 利用希望者の割合が高いのも、「福祉用具の貸与・支給」34.4%と「住宅改修費の助成」32.0%であった。

表2-4-19　その他の介護保険等サービスの利用者の割合

	人数	訪問入浴介護	訪問リハビリ	認知症対応型共同生活介護	小規模多機能型居宅介護	福祉用具の貸与・支給	住宅改修費の助成	訪問診療
総　数	323	0.3%	5.9%	0.3%	0.0%	26.0%	33.0%	3.7%
要支援1	201	0.0%	4.5%	0.5%	0.0%	20.4%	33.7%	4.5%
要支援2	122	0.8%	8.2%	0.0%	0.0%	35.2%	32.0%	2.5%

表2-4-20　その他の介護保険等サービスの利用希望者の割合

	人数	訪問入浴介護	訪問リハビリ	認知症対応型共同生活介護	小規模多機能型居宅介護	福祉用具の貸与・支給	住宅改修費の助成	訪問診療
総　数	323	4.0%	12.4%	3.1%	3.4%	34.4%	32.0%	12.1%
要支援1	201	3.0%	10.9%	4.0%	4.0%	31.8%	30.3%	11.4%
要支援2	122	5.8%	14.9%	1.6%	2.5%	38.5%	34.7%	13.2%

８）サービス利用料の負担感

- サービス利用料の自己負担（１割）が家計にとってどの程度負担になっているかを質問した結果、「非常に負担」5.8%、「多少負担」25.2%で、両者を合計すると31%の要支援認定者がサービス利用料を負担に感じていた。
- 認定状況別にみると、「非常に、または多少負担」と答えた人の割合は要支援１では31.6%、要支援２では30.1%で、ほぼ同程度であった。

表2-4-21　サービス利用料の負担感

	人数	非常に負担	多少負担	あまり負担ではない	まったく負担ではない	無回答
総　数	226	5.8%	25.2%	44.7%	22.6%	1.8%
要支援1	133	4.5%	27.1%	42.9%	23.3%	2.3%
要支援2	93	7.5%	22.6%	47.3%	21.5%	1.1%

注）「サービスを利用していない」や「サービス利用料を払っていない」と回答した人は除外.

９）有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅

- 有料老人ホームの利用希望をたずねた。質問にあたって、イメージをもってもらうために、「有料老人ホームとは、食事や介護の提供を受けるために、自分で費用を負担して入居する施設です。入居の際の費用が数百万円から数千万円の場合もあります。有料老人ホームへの入居を希望しますか。」と質問した。その結果、「現在、入居中である」1.5%、「すぐにでも入居を希望する」0.6%、「入居を検討したいと思う」4.9%で、既に入居している人も含めると、利用意向のある人は要支援認定者の7.0%であった。しかし、「入居を希望するが、費用や条件面でむずかしい」という人が17.0%いるので、このような人も合わせると、有料老人ホームへの入居希望がある人は、要支援認定者の24.0%であった。
- 「サービス付き高齢者向け住宅とは、安否確認や生活相談などのサービスがついた高齢者向けの賃貸住宅です。通常の賃貸住宅と同様に、家賃や敷金がかかります。サービス付き高齢者向け住宅への入居を希望しますか。」という質問に対しては、「現在、入居中」0.6%、「すぐにでも入居を希望する」0.6%、「入居を検討したいと思う」4.0%であった。既に入居している人も含めると、サービス付き高齢者向け住宅の利用意向がある人は、要支援認定者の5.2%であった。「入居を希望するが、費用や条件面でむずかしい」という人は7.4%で、このような人も合わせると、サービス付き高齢者向け住宅への入居希望がある人は、要支援認定者の12.6%であった。有料老人ホームと比べると、周知度が低いせいか、利用意向もまだ低かった。
- これらの利用希望に関して、要支援１と要支援２では大きな違いはなかった。

表2-4-22　有料老人ホームの利用希望

	人数	入居中	すぐにでも入居希望	入居を検討したい	希望するが難しい	なるべく入居したくない	絶対入居したくない	入居の必要ない	無回答
総　数	323	1.5%	0.6%	4.9%	17.0%	17.6%	4.6%	53.1%	0.6%
要支援1	201	2.0%	0.5%	4.5%	15.4%	18.9%	2.5%	55.7%	0.5%
要支援2	122	0.8%	0.8%	5.7%	19.5%	15.4%	8.1%	48.8%	0.8%

表2-4-23　サービス付き高齢者向け住宅の利用希望

	人数	入居中	すぐにでも入居希望	入居を検討したい	希望するが難しい	なるべく入居したくない	絶対入居したくない	入居の必要ない	無回答
総　数	323	0.6%	0.6%	4.0%	7.4%	16.9%	7.7%	62.5%	0.3%
要支援1	201	0.5%	0.5%	4.0%	8.4%	15.3%	6.9%	64.4%	0.0%
要支援2	122	0.8%	0.8%	4.1%	5.7%	19.5%	8.9%	59.3%	0.8%

５．介護者の状況

１）主介護者の状況

- 主に介護を担当している人（主介護者）は、「子ども（義理も含む）」が34.0％と最も多く、次いで「配偶者」23.1％、「福祉サービス」8.5％であった。「主介護者がいない」という人も30.6％いた。
- 主介護者は「女性」が69.9％を占めていた。
- 主介護者の年齢階級別分布をみると、「60歳未満」が34.0％、「60～70歳未満」が29.9％、「70～80歳未満」が19.1％であった。
- 主介護者の居住地は、「同居」が74.6％、「片道15分未満」が9.8％であった。
- 主介護者の介護時間は、「毎日かかりっきり」が11.3％、「かかりっきりではないが、ほぼ毎日」が47.5％、「週に3～5日」が10.3％であった。主介護者が要支援認定者の配偶者の場合は、「毎日かかりっきり」と「かかりっきりではないが、ほぼ毎日」の割合が合わせて78.7％であったのに対し、主介護者が子どもの場合は、この割合は45.0％であった。
- 主介護者の就業状況は、「仕事をしていない」が57.5％、「常勤」が22.8％、「自営業」が10.4％、「パート」が9.3％であった。

表2-5-1　主介護者の高齢者からみた続き柄（N＝323人）

配偶者	23.1%
子ども(義理も含む)	34.0%
その他の親族	2.7%
福祉サービス	8.5%
その他・不明	3.8%
主介護者はいない	30.6%
総数	100.0%

注)福祉サービスには、ホームヘルパー、施設の職員が含まれる.

表2-5-2　主介護者の性別

		男性	女性
配偶者	(75 人)	32.4%	67.6%
子ども(義理も含む)	(110 人)	28.2%	71.8%
その他の親族	(9 人)	33.3%	66.7%
総数	(184 人)	30.1%	69.9%

表2-5-3　主介護者の年齢階級

	60 歳未満	60～70 歳未満	70～80 歳未満	80 歳以上
配偶者　（75 人）	0.0%	10.8%	45.9%	43.2%
子ども（義理も含む）（110 人）	56.4%	42.7%	0.9%	0.0%
その他の親族　（9 人）	44.4%	33.3%	22.2%	0.0%
総数　（184 人）	34.0%	29.9%	19.1%	16.5%

表2-5-4　主介護者の居住地

	同居	片道 15 分未満	片道 15～60 分未満	片道 60 分以上
配偶者　（75 人）	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
子ども（義理も含む）（110 人）	56.9%	16.5%	13.8%	12.9%
その他の親族　（9 人）	77.8%	11.1%	11.1%	0.0%
総数　（184 人）	74.6%	9.8%	8.3%	7.3%

表2-5-5　主介護者の介護時間

	毎日かかりきり	かかりきりではないが、ほぼ毎日	週に３～５日	週に１～２日	それより少ない
配偶者　（75 人）	12.0%	66.7%	4.0%	2.7%	14.7%
子ども（義理も含む）（110 人）	9.0%	36.0%	14.4%	20.7%	19.8%
その他の親族　（9 人）	37.5%	37.5%	12.5%	12.5%	0.0%
総数　（184 人）	11.3%	47.5%	10.3%	13.4%	17.0%

表2-5-6　主介護者の就労状況

	常勤	パート	自営業（手伝いも含む）	仕事をしていない
配偶者　（75 人）	0.0%	6.7%	2.6%	90.7%
子ども（義理も含む）（110 人）	38.5%	11.0%	15.6%	34.9%
その他の親族　（9 人）	22.2%	11.1%	11.1%	55.6%
総数　（184 人）	22.8%	9.3%	10.4%	57.5%

２）副介護者の状況

- 副介護者については、「副介護者がいない」という人が59.2%と最も多かった。副介護者がいる人では、「子ども（義理も含む）」が27.7%（全回答者に占める割合）と最も多く、「福祉サービス」（7.2%）がそれに続いていた。
- 副介護者は「女性」が59.2%を占めていた。
- 副介護者の年齢階級別分布は、「60歳未満」が67.6%、「60～70歳未満」が24,5%、「70～80歳未満」が6.8%であった。
- 副介護者の居住地は、「同居」が42.7%、「片道15分未満」が20.4%となっていた。
- 副介護者の介護時間は、「毎日かかりっきり」が2.0%、「かかりっきりではないが、ほぼ毎日」が16.7%、「週に3～5日」が4.9%であった。副介護者が配偶者の場合は、「毎日かかりっきり」と「かかりっきりではないが、ほぼ毎日」の割合は合わせて50.0%であったのに対し、子どもが副介護者の場合は、この割合は16.8%であった。
- 副介護者の就業状況は、「仕事をしていない」が33.3%、「常勤」が38.2%、「パート」が16.7%、「自営業」が10.8%であった。

表2-5-7　副介護者の高齢者からみた続き柄（N＝322人）

配偶者	0.9%
子ども(義理も含む)	27.7%
その他の親族	3.4%
福祉サービス	7.2%
その他・不明	1.7%
副介護者はいない	59.2%
総数	100.0%

注1)主介護者の続き柄の質問に対して無回答の人(n=1)は除外している.
注2)副介護者がいない人の中には主介護者の続き柄に関する質問に対して「主介護者はいない」との回答の人も含まれる.
注3)福祉サービスには、ホームヘルパー、施設の職員が含まれる.

表2-5-8副介護者の性別

	男性	女性
配偶者　（3 人）	66.7%	33.3%
子ども(義理も含む)　（89 人）	42.7%	57.3%
その他の親族　（11 人）	18.2%	81.8%
総数　（103 人）	40.8%	59.2%

表2-5-9 副介護者の年齢階級

		60 歳未満	60～70 歳未満	70～80 歳未満	80 歳以上
配偶者	(3 人)	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%
子ども(義理も含む)	(89 人)	70.8%	25.9%	3.4%	0.0%
その他の親族	(11 人)	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%
総数	(103 人)	67.6%	24.5%	6.8%	1.0%

表2-5-10 副介護者の居住地

		同居	片道 15 分未満	片道 15～60 分未満	片道 60 分以上
配偶者	(3 人)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
子ども(義理も含む)	(89 人)	38.2%	21.3%	30.3%	10.1%
その他の親族	(11 人)	63.6%	18.2%	9.1%	9.1%
総数	(103 人)	42.7%	20.4%	27.2%	9.7%

表2-5-11 副介護者の介護時間

		毎日かかりきり	かかりきりではないが、ほぼ毎日	週に３～５日	週に１～２日	それより少ない	不明
配偶者	(3 人)	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
子ども(義理も含む)	(89 人)	1.1%	15.7%	4.5%	39.3%	38.2%	1.1%
その他の親族	(11 人)	9.1%	18.2%	9.1%	27.3%	36.4%	0.0%
総数	(103 人)	2.0%	16.7%	4.9%	37.3%	38.3%	1.0%

表2-5-12 副介護者の就労状況

		常勤	パート	自営業（手伝いも含む）	仕事をしていない	不明
配偶者	(3 人)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
子ども(義理も含む)	(89 人)	39.8%	17.0%	11.2%	30.7%	1.1%
その他の親族	(11 人)	36.4%	18.2%	9.1%	36.4%	0.0%
総数	(103 人)	38.2%	16.7%	10.8%	33.3%	1.0%

３）副副介護者の状況

- 副副介護者については、「副副介護者がいない」という人が89.7％と最も多かった。副副介護者がいる人では、「子ども（義理も含む）」が5.9％（全回答者に占める割合）と最も多く、「その他の親族」と「福祉サービス」がそれぞれ2.8％と続いていた。

表2-5-13　副副介護者の高齢者からみた続き柄（N＝321人）（複数回答）

子ども（義理も含む）	5.9%
その他の親族	2.8%
福祉サービス	2.8%
その他	0.0%
副副介護者はいない	89.7%
総数	100.0%

注1)主介護者と副介護者の続き柄の質問に対して無回答の人(n=2)は除外している.
注2)その他には、1ケース含まれている。
注3)福祉サービスには、ホームヘルパー、施設の職員が含まれる.

６．要支援認定者の健康と生活の状況

１）健康度自己評価

- 要支援認定者が自分の健康状態をどのように評価しているか質問したところ、「よい」が 5.4%、「まあよい」が 15.3%、「ふつう」が 29.3%、「あまりよくない」が 39.2%、「よくない」が 10.0%であった。
- 男性は「よい／まあよい」が 25.3%で「ふつう」が 34.1%、女性はそれぞれ 18.8%と 27.1%で、男性の方が健康度自己評価は良好であった。
- 年齢階級別では、「よい／まあよい」の割合は、「65～74 歳」では 17.1%、「75～84 歳」では 16.3%であったが、「85 歳以上」では 28.2%であり、健康度自己評価は年齢階級が高い人で低いというわけではなかった。
- 認定状況によっても多少の差があり、「よい／まあよい」の割合は、「要支援１」では 22.7%であったが、「要支援２」では 17.5%で、介護度の重い方が健康度自己評価も悪い傾向がみられた。
- 所得段階別では、段階が高いほど健康度自己評価は良好であった。「よい／まあよい」の割合は、「第 1～3 段階」では 16.9%であったが、「第 6 段階以上」では 27.1%であった。
- 住居形態では、「よい／まあよい」の割合は、「持家」の人では 18.8%であったが、「借家」の人では 5.3%で、「借家」の方が「持家」の人と比較した場合に、健康度自己評価はかなり低かった。
- 世帯構成別では、「よい／まあよい」の割合は、「単独世帯」では 17.9%、「子どもと同居世帯」では 18.3%で、「夫婦二人世帯」の 29.8%と比べると、「単身世帯」や「子どもと同居世帯」の人では健康度自己評価が低かった。

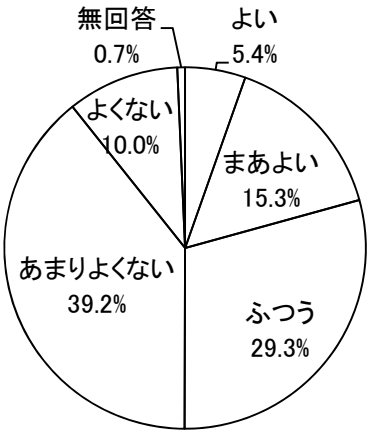

図2-6-1　要支援認定者の健康度自己評価

注）本人回答に限定.

表 2-6-1　要支援認定者の健康度自己評価

		人数	よい まあよい	ふつう	あまりよくない よくない	不明
総　数		298	20.7%	29.3%	49.2%	0.7%
性別	男性	91	25.3%	34.1%	39.6%	1.1%
	女性	207	18.8%	27.1%	53.6%	0.5%
年齢階級	65～74 歳	41	17.1%	31.7%	48.8%	2.4%
	75～84 歳	147	16.3%	23.8%	59.2%	0.7%
	85 歳以上	110	28.2%	35.5%	36.4%	0.0%
認定状況	要支援 1	185	22.7%	31.9%	45.4%	0.0%
	要支援 2	114	17.5%	25.4%	55.3%	1.8%
所得段階	第 1～3 段階	142	16.9%	25.4%	57.0%	0.7%
	第 4～5 段階	71	21.1%	33.8%	45.1%	0.0%
	第 6 段階～	85	27.1%	32.9%	38.8%	1.2%
住居形態	持家	213	18.8%	31.5%	49.3%	0.5%
	借家	19	5.3%	10.5%	78.9%	5.3%
	公営住宅	59	30.5%	27.1%	42.4%	0.0%
	その他	8	37.5%	37.5%	12.5%	12.5%
世帯構成	単身世帯	134	17.9%	26.1%	55.2%	0.7%
	夫婦二人世帯	57	29.8%	26.3%	42.1%	1.8%
	子と同居	60	18.3%	30.0%	51.7%	0.0%
	子・孫と同居	36	19.4%	41.7%	38.9%	0.0%
	その他	10	40.0%	30.0%	30.0%	0.0%

注）クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した.

２）こころの状態

- 抑うつ傾向を把握する指標として広く用いられているＫ６という指標を用いて、要支援認定者の心の状態を調べた。これは得点が高いほど気分・不安障害やうつの傾向が強いことを表し、5 点以上は気分・不安障害の一次スクリーニングのカットオフ値とされている。本調査では、6 項目のうち「何をするのも骨折りと感じますか」については、項目から削除した。なぜならば対象者は要支援であることから、日常生活については精神的よりも身体的に骨折りと感じる場合が多いためである。ただし、カットオフポイントについては、5 点のままとした。その結果は、「0～4 点」が 66.5%、「5～9 点」が 20.6%、「10～14 点」が 9.3%、「15 点以上」が 2.8%、「不明」0.9%であった。
- 今回実施した一般高齢者調査における点数の分布は、「0～4 点」が 70.6%、「5～9 点」が 18.5%、「10～14 点」が 6.9%、「15 点以上」が 2.2%、「不明」が 1.8%であった。一般高齢者と比較した場合、1 項目除いているものの、気分・不安障害の問題がないと考えられる「0～4 点」の人の割合は、一般高齢者よりも要支援認定者の方が多かった。
- 「0～4 点」の割合は「男性」で 68.1%、「女性」で 65.7%と、性差は大きくなかった。
- 年齢階級別では、「0～4 点」の割合は、「65～74 歳」と「75～84 歳」ではそれぞれ 60.0%と 59.9%であったが、「85 歳以上」では 78.2%であり、年齢が若い高齢者の方が抑うつ傾向は強いことがうかがえた。
- 認定状況については、「0～4 点」の割合は、「要支援 1」では 67.6%、「要支援 2」では 64.6%で、認定の程度による差は大きくなかった。
- 所得段階別では、「0～4 点」の割合は、「第 1～3 段階」では 62.7%で、「第 4～5 段階」や「第 6 段階以上」（各 73.2%と 66.3%）と比べて低かった。
- 住居形態では、「0～4 点」の割合は「借家」では 36.8%で、「持家」の人（68.7%）と比較してかなり低かった。
- 世帯構成別では、「0～4 点」の割合は、「単独世帯」では 60.0%と、「夫婦二人世帯」「子どもと同居世帯」「子ども、孫との同居世帯」（いずれも 70%程度）と比較して低かった。

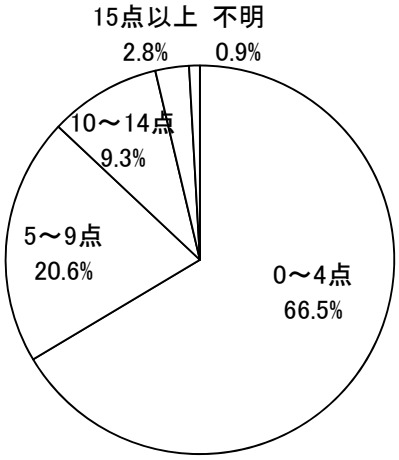

図 2-6-2 要支援認定者のこころの状態

注）本人回答に限定

表 2-6-2 要支援認定者のこころの状態（K6 指標）

		人数	0～4 点	5～9 点	10 点以上	不明
総　数		298	66.5%	20.6%	12.1%	0.9%
性別	男性	91	68.1%	18.7%	13.2%	0.0%
	女性	207	65.7%	21.3%	11.6%	1.4%
年齢階級	65～74 歳	41	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%
	75～84 歳	147	59.9%	25.2%	14.3%	0.7%
	85 歳以上	110	78.2%	14.5%	6.4%	0.9%
認定状況	要支援 1	185	67.6%	17.8%	13.0%	1.6%
	要支援 2	113	64.6%	24.8%	10.6%	0.0%
所得段階	第 1～3 段階	142	62.7%	22.5%	12.7%	2.1%
	第 4～5 段階	71	73.2%	14.1%	12.7%	0.0%
	第 6 段階～	85	66.3%	23.3%	10.5%	0.0%
住居形態	持家	213	68.7%	19.4%	11.4%	0.5%
	借家	19	36.8%	36.8%	26.3%	0.0%
	公営住宅	59	67.8%	18.6%	11.9%	1.7%
	その他	8	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
世帯構成	単身世帯	134	60.0%	25.9%	11.9%	2.2%
	夫婦二人世帯	57	70.2%	21.1%	8.8%	0.0%
	子と同居	60	68.3%	18.3%	13.3%	0.0%
	子・孫と同居	36	75.0%	8.3%	16.7%	0.0%
	その他	10	90.0%	0.0%	10.0%	0.0%

注）クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した.

３）外出頻度

- 通勤、通院、買い物なども含めた外出頻度は、「ほぼ毎日」が 22.8%、「週に 4～5 日」が 18.6%、「週に 2～3 日」が 33.7%、「週に 1 日くらい」が 11.0%であった。週に 1 日よりも少ない、いわゆる「閉じこもり」が疑われる人は 10.9%であった。
- 性別では、「ほぼ毎日」の割合が「男性」で 43.3%、「女性」で 13.9%と、男性の方が女性と比較して外出頻度が高い傾向がみられた。
- 年齢階級別では、「ほぼ毎日」の割合は、「65～74 歳」では 29.3%で、「75～84 歳」や「85 歳以上」（各 20%程度）と比較して、高い傾向がみられた。
- 認定状況別では、「ほぼ毎日」の割合は、「要支援１」27.0%、「要支援２」15.9%で、要支援 1 の方が高かった。
- 所得段階別では、「ほぼ毎日」の割合は、「第 1～3 段階」17.6%、「第 4～5 段階」18.3%、「第 6 段階以上」34.9%で、所得段階が高い方が外出頻度も高い傾向がうかがえた。
- 住居形態では、「ほぼ毎日」や「週に 4～5 日」の割合は「借家」では 26.3%で、「持家」の人（39.9%）と比較してかなり低かった。
- 世帯構成別では、「ほぼ毎日」の割合は「夫婦二人世帯」が最も高く（36.2%）、それ以外の世帯構成の人はいずれも 2 割以下であった。

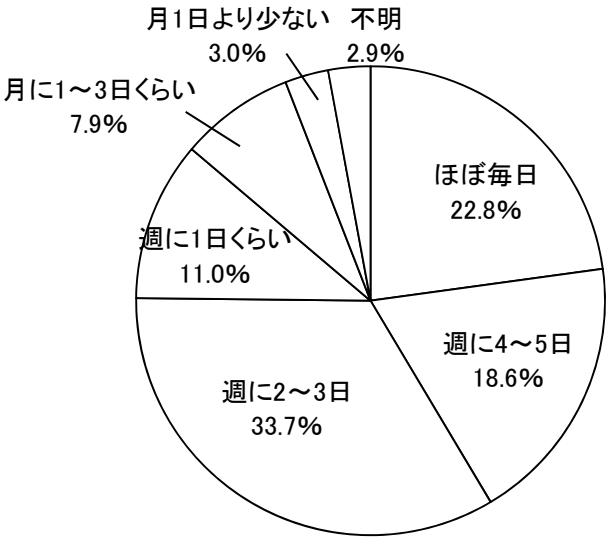

図 2-6-3　要支援認定者の外出頻度

注）本人回答に限定.

表 2-6-3 要支援認定者の外出頻度

		人数	ほぼ毎日	週に 4～5 日	週に 1～3 日	週に 1 日未満	不明
総　数		298	22.8%	18.6%	44.7%	10.9%	2.9%
性別	男性	90	43.3%	10.0%	36.7%	8.9%	1.1%
	女性	209	13.9%	22.5%	47.8%	12.0%	3.8%
年齢階級	65～74 歳	41	29.3%	22.0%	31.7%	12.2%	4.9%
	75～84 歳	146	21.9%	15.8%	50.0%	9.6%	2.7%
	85 歳以上	110	20.9%	20.9%	42.7%	12.7%	2.7%
認定状況	要支援 1	185	27.0%	20.0%	40.5%	9.7%	2.7%
	要支援 2	113	15.9%	15.9%	51.3%	13.3%	3.5%
所得段階	第 1～3 段階	142	17.6%	19.0%	45.8%	15.5%	2.1%
	第 4～5 段階	71	18.3%	18.3%	52.1%	7.0%	4.2%
	第 6 段階～	86	34.9%	18.6%	37.2%	5.8%	3.5%
住居形態	持家	213	20.9%	19.0%	46.4%	10.0%	3.8%
	借家	19	15.8%	10.5%	52.6%	15.8%	5.3%
	公営住宅	59	37.3%	20.3%	33.9%	8.5%	0.0%
	その他	8	0.0%	11.1%	55.6%	33.3%	0.0%
世帯構成	単身世帯	134	21.6%	18.7%	44.0%	13.4%	2.2%
	夫婦二人世帯	58	36.2%	17.2%	36.2%	8.6%	1.7%
	子と同居	59	20.3%	16.9%	54.2%	6.8%	1.7%
	子・孫と同居	36	13.9%	25.0%	44.4%	8.3%	8.3%
	その他	10	10.0%	10.0%	50.0%	30.0%	10.0%

注）クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した.

４）食生活

- 食生活上の問題について 11 項目にわたって質問した。最も多くの人で該当した問題は、「日に 3 種類以上の薬を飲んでいる」80.2%であった。次いで、「一人で食事をすることが多い」59.5%であった。「体の具合が悪いために、食事の支度ができないことがある」「最近、病気のために食べる物の種類や量が変わった」「歯や口の中の具合が悪いために、食べることが困難なことがある」についても、それぞれ 2 割前後の該当者がいた。
- 食生活上の問題は、年齢が若い高齢者の方が多かった。
- 所得段階別では、「第 1～3 段階」の人で多かった。
- 住居形態では、「借家」の人で多かった。
- 世帯構成では、「単身世帯」で多かった。

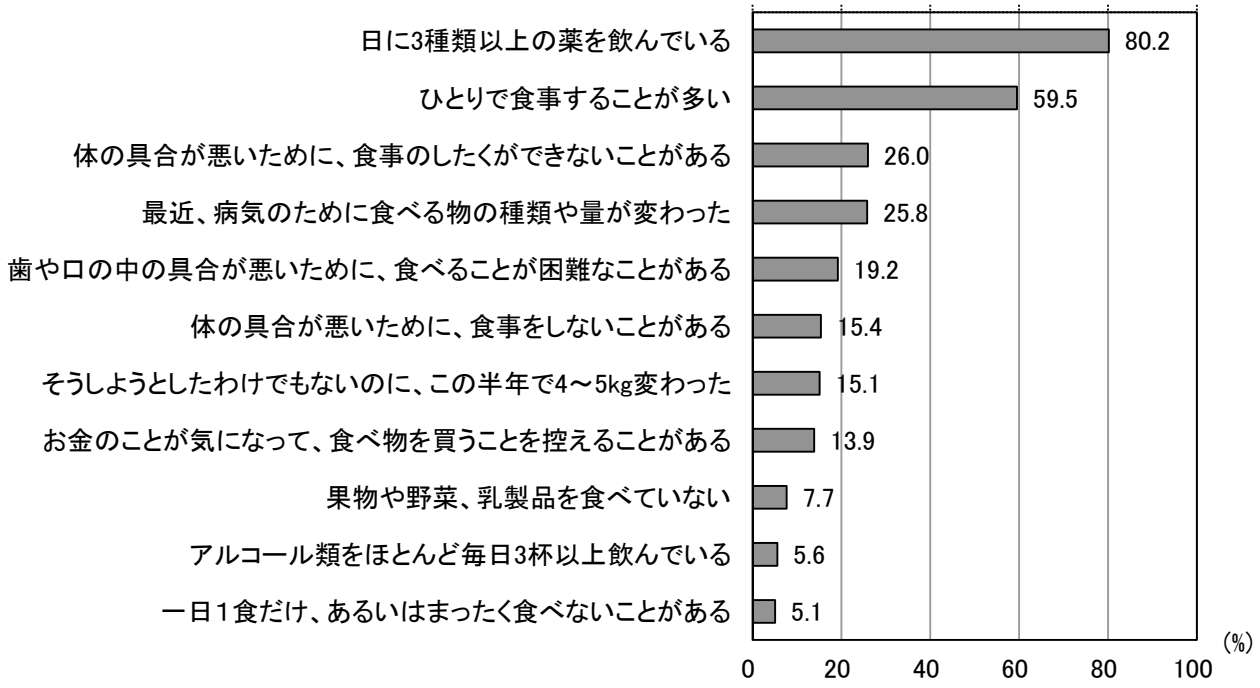

図 2-6-4　要支援認定者の食生活上の問題

注 1）本人回答に限定.
注 2）割合の算出には、無回答の人も含めている。

表 2-6-4 要支援認定者の食生活の問題項目数

		人数	平均値
総　数		298	2.74
性別	男性	91	2.70
	女性	208	2.75
年齢階級	65～74 歳	41	3.13
	75～84 歳	147	2.87
	85 歳以上	110	2.40
認定状況	要支援 1	185	2.67
	要支援 2	114	2.84
所得段階	第 1～3 段階	142	3.19
	第 4～5 段階	71	2.32
	第 6 段階～	85	2.32
住居形態	持家	213	2.61
	借家	19	3.94
	公営住宅	59	2.70
	その他	8	3.34
世帯構成	単身世帯	134	3.32
	夫婦二人世帯	57	2.09
	子と同居	60	2.26
	子・孫と同居	37	2.35
	その他	11	2.84

注 1)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した.

注 2)項目に無回答がある人については、問題なしとした。

５）社会関係

- 同居家族以外の人との交流頻度について、別居の子ども・親族、友人、近隣の人のそれぞれについて質問した。別居の子ども・親族については、「週 2 回以上」が 27.0%、「週 1 回程度」が 15.1%であったが、「ほとんどない」という人も 21.0%いた。
- 友人については、「週 2 回以上」が 19.4%、「週 1 回程度」が 17.5%で、「ほとんどない」は 33.4%であった。
- 近隣の人については、「週 2 回以上」が 28.1%、「週 1 回程度」が 10.2%で、「ほとんどない」が 36.8%であった。
- 「別居の子ども・親族」や「友人」については、女性の方が男性よりも交流頻度が高かった。
- 年齢階級別では、「別居の子ども・親族」については、週に 1 回以上交流する割合が「65～74 歳」では 19.5%であるのに対して、「85 歳以上」では 50.0%と、年齢が上がると交流頻度が多くなっていた。
- 認定状況による差はほとんどなかった。
- 所得段階別にみても、いずれの関係においても、ほとんど差がなかった。
- 住居形態では、いずれの関係においても、「借家」の人の方が「持家」の人よりも交流頻度が少ない傾向があった。
- 世帯構成別では、いずれの社会関係においても、「単独世帯」や「夫婦のみ世帯」では、「子どもと同居」や「子ども、孫と同居」の世帯と比較して、交流頻度が多い傾向が見られた。

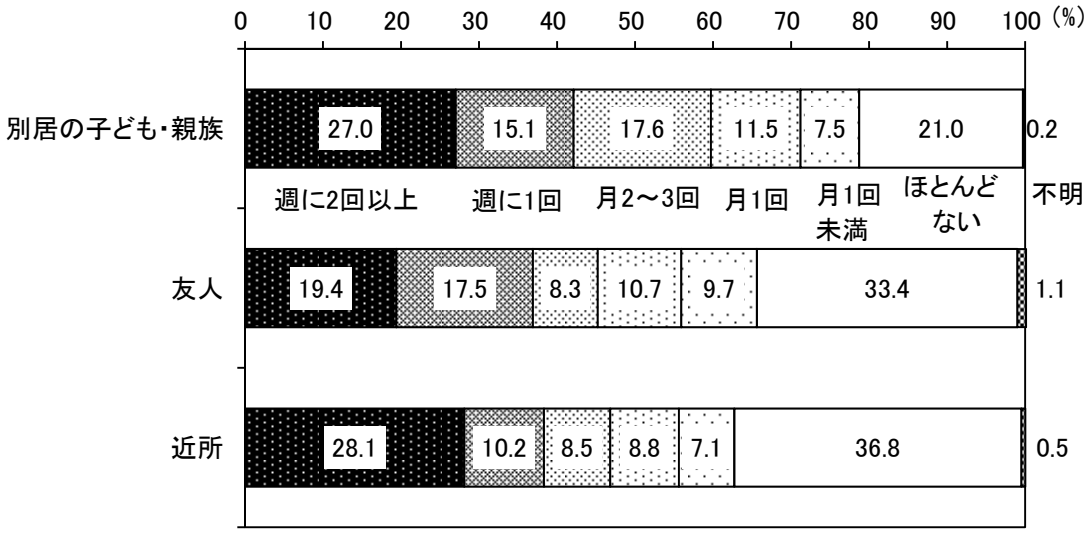

図 2-6-5 要支援認定者の同居家族以外の人との交流頻度

注）本人回答に限定.

表 2-6-5 要支援認定者の同居家族以外の人との交流 （交流頻度が週1回以上の人の割合）

		人数	別居の子ども･親族	友人	近隣の人
総　数		298	42.1%	36.9%	38.3%
性別	男性	90	28.9%	25.3%	35.2%
	女性	209	47.8%	42.3%	39.9%
年齢階級	65～74 歳	41	19.5%	42.9%	34.1%
	75～84 歳	146	42.2%	38.1%	41.2%
	85 歳以上	110	50.0%	33.6%	35.5%
認定状況	要支援 1	185	42.2%	37.3%	37.8%
	要支援 2	113	42.1%	36.0%	38.9%
所得段階	第 1～3 段階	142	44.1%	37.8%	40.4%
	第 4～5 段階	71	38.0%	32.4%	35.2%
	第 6 段階～	86	42.4%	39.5%	38.4%
住居形態	持家	213	45.3%	36.3%	37.3%
	借家	19	15.8%	10.5%	21.1%
	公営住宅	59	39.0%	44.1%	47.5%
	その他	8	37.5%	62.5%	37.5%
世帯構成	単身世帯	134	50.4%	45.5%	44.4%
	夫婦二人世帯	58	45.6%	35.1%	42.1%
	子と同居	59	31.7%	23.7%	33.3%
	子･孫と同居	36	29.7%	30.6%	25.0%
	その他	10	18.2%	30.0%	18.2%

注）クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した.

６）社会的支援

- 「健康や生活、福祉のことでの相談（情報的支援）」「話を聞いてくれたり、理解してくれる（情緒的支援）」「日頃の生活のちょっとした手助け（手段的支援）」のそれぞれについて、「同居家族」「別居の家族・親族」「知人・友人・近隣の人」「医療福祉の専門職」がそれぞれどの程度支援してくれるかを質問した。
- 同居家族については、いずれの支援についても「かなりある」との回答が 40%以上であった。
- 別居の親族については、「かなりある」との回答は、手段的支援では 30%未満であったが、情報的支援や情緒的支援では 30%以上であった。
- 知人・友人・近隣の人では、「かなりある」との回答は、情報的支援と情緒的支援については各 10%を超えていたが、手段的支援は 5%程度であった。
- 医療福祉の専門職については、「かなりある」との回答は、情報的支援で 30%を超えていたが、それ以外の支援は 20%未満であった。
- 性別では、男性は女性よりも「同居家族」からの支援が、女性は男性よりも「別居親族」からの支援が「かなりある」との割合が高く、これは情報的、情緒的、手段的支援に共通していた。
- 年齢階級別では、年齢階級が高くなるに伴って「別居親族」からの支援が増えていた。これは支援の種類に関係なかった。
- 認定状況については、差がほとんどなかった。
- 所得段階別では、「第 1～3 段階」の人では、「第 4,5 段階」や「第 6 段階以上」の人と比べて、いずれの支援についても、「同居家族」からの支援が「かなりある」という割合が少なかった。
- 住居形態では、いずれの支援の種類に関しても、「借家」の人では「持家」の人と比較して、「同居家族」あるいは「別居親族」からの支援が少なかった。
- 世帯構成別では、「単身世帯」では、いずれの種類の支援に関しても、「同居家族」に替わって「別居親族」からの支援が「かなりある」という回答が多かった。しかし、その割合は 50%に満たなかった。

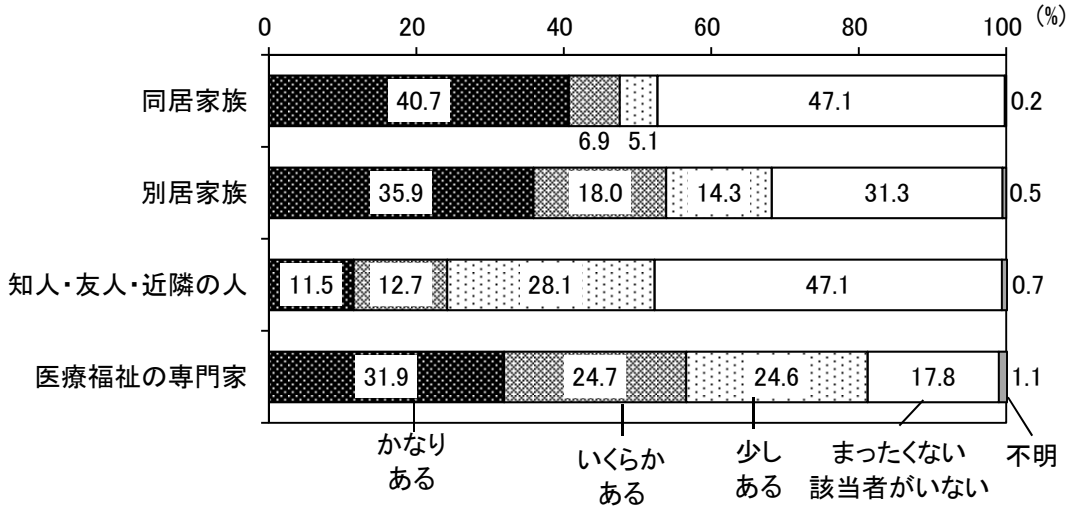

図 2-6-6　要支援認定者への情報的支援　注）本人回答に限定

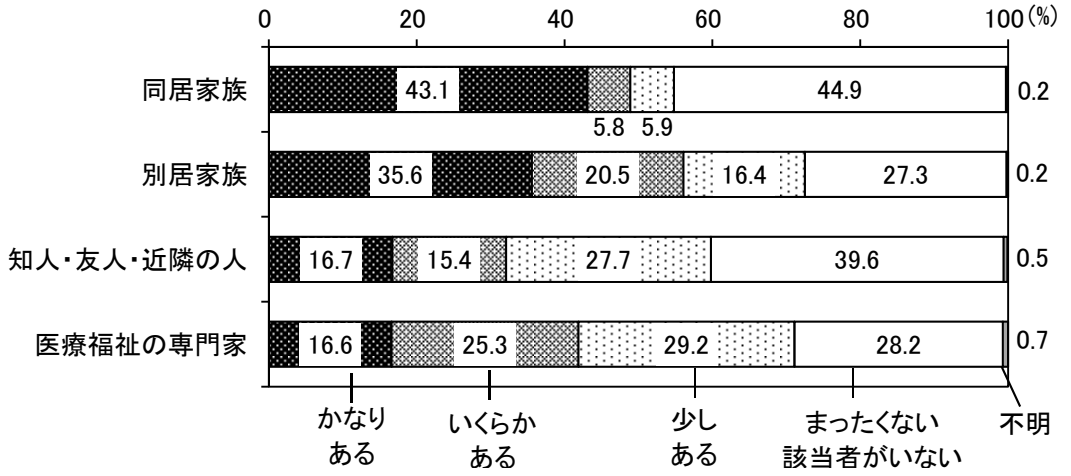

図 2-6-7　要支援認定者への情緒的支援　注）本人回答に限定

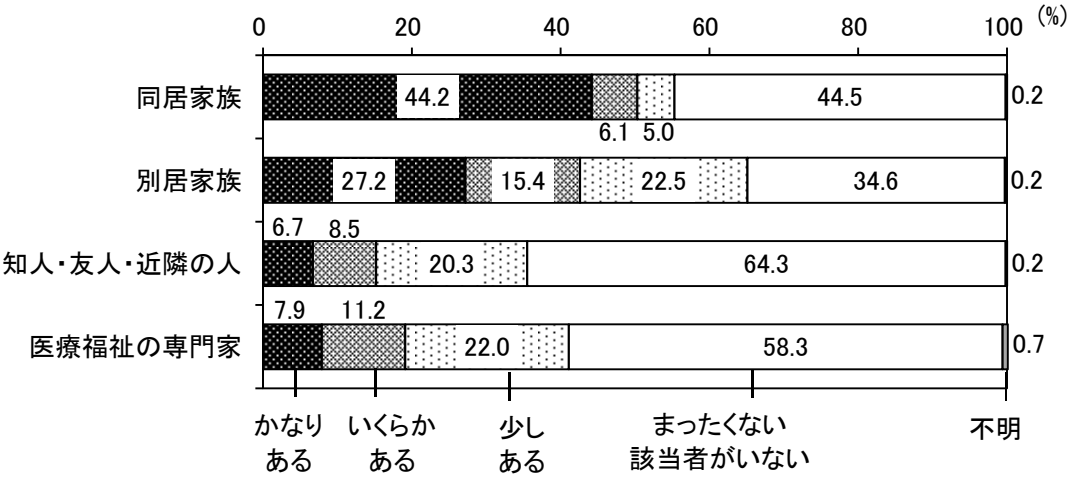

図 2-6-8　要支援認定者への手段的支援　注）本人回答に限定

表 2-6-6 要支援認定者への情報的支援 （「かなりある」という人の割合）

		人数	同居家族	別居親族	知人・友人・近隣の人	医療福祉の専門職
総　数		298	40.7%	35.9%	11.5%	31.9%
性別	男性	90	48.9%	26.7%	6.7%	33.3%
	女性	209	37.0%	39.9%	13.5%	31.2%
年齢階級	65～74 歳	41	43.9%	26.8%	14.6%	41.5%
	75～84 歳	146	35.4%	32.7%	11.6%	29.3%
	85 歳以上	110	46.4%	43.6%	10.0%	31.5%
認定状況	要支援 1	185	41.3%	35.1%	9.2%	28.3%
	要支援 2	113	39.5%	36.8%	15.8%	37.7%
所得段階	第 1～3 段階	142	22.5%	38.5%	13.4%	25.4%
	第 4～5 段階	71	63.4%	32.4%	7.1%	38.0%
	第 6 段階～	86	51.8%	34.9%	11.6%	37.2%
住居形態	持家	213	49.1%	39.2%	10.8%	33.0%
	借家	19	26.3%	15.8%	5.3%	47.4%
	公営住宅	59	20.3%	28.8%	13.6%	20.3%
	その他	8	0.0%	62.5%	25.0%	62.5%
世帯構成	単身世帯	134	3.7%	46.3%	17.0%	28.4%
	夫婦二人世帯	58	72.4%	38.6%	8.8%	42.1%
	子と同居	59	74.6%	16.7%	5.0%	25.0%
	子・孫と同居	36	73.0%	35.1%	10.8%	36.1%
	その他	10	36.4%	0.0%	0.0%	45.5%

注）クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した.

表 2-6-7 要支援認定者への情緒的支援 （「かなりある」という人の割合）

		人数	同居家族	別居親族	知人・友人・近隣の人	医療福祉の専門職
総　数		298	43.1%	35.6%	16.7%	16.6%
性別	男性	90	53.3%	23.1%	11.0%	17.8%
	女性	209	38.6%	40.9%	19.3%	15.9%
年齢階級	65～74 歳	41	43.9%	19.5%	19.5%	17.1%
	75～84 歳	146	37.8%	33.3%	14.3%	18.4%
	85 歳以上	110	50.0%	45.0%	19.1%	13.6%
認定状況	要支援 1	185	44.9%	35.9%	15.8%	17.3%
	要支援 2	113	40.4%	35.1%	18.4%	15.8%
所得段階	第 1～3 段階	142	25.4%	38.7%	19.0%	16.9%
	第 4～5 段階	71	67.1%	32.4%	11.3%	15.7%
	第 6 段階～	86	52.9%	32.6%	17.4%	16.5%
住居形態	持家	213	51.4%	37.0%	14.6%	15.1%
	借家	19	21.1%	15.8%	5.3%	15.0%
	公営住宅	59	26.7%	33.3%	23.7%	18.6%
	その他	8	0.0%	62.5%	37.5%	50.0%
世帯構成	単身世帯	134	3.7%	48.5%	23.9%	20.1%
	夫婦二人世帯	58	80.7%	29.8%	14.0%	14.0%
	子と同居	59	74.6%	20.0%	6.7%	11.7%
	子・孫と同居	36	77.8%	32.4%	10.8%	19.4%
	その他	10	50.0%	0.0%	10.0%	0.0%

注）クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した.

表 2-6-8 要支援認定者への手段的支援 （「かなりある」という人の割合）

		人数	同居家族	別居親族	知人・友人・近隣の人	医療福祉の専門職
総　数		298	44.2%	27,2%	6.7%	7.9%
性別	男性	90	58.2%	18.9%	5.5%	8.8%
	女性	209	38.0%	30.8%	7.2%	7.7%
年齢階級	65～74 歳	41	53.7%	12.2%	9.8%	2.4%
	75～84 歳	146	38.1%	23.1%	7.5%	9.5%
	85 歳以上	110	49.1%	38.2%	4.5%	8.1%
認定状況	要支援 1	185	46.2%	24.9%	4.9%	7.6%
	要支援 2	113	40.7%	31.0%	9.6%	8.8%
所得段階	第 1～3 段階	142	24.6%	30.3%	8.5%	10.6%
	第 4～5 段階	71	67.6%	22.5%	1.4%	1.4%
	第 6 段階～	86	57.0%	26.7%	8.1%	8.2%
住居形態	持家	213	52.8%	30.7%	6.1%	6.6%
	借家	19	21.1%	15.8%	5.0%	5.3%
	公営住宅	59	27.1%	15.3%	6.8%	5.1%
	その他	8	0.0%	50.0%	25.0%	62.5%
世帯構成	単身世帯	134	2.2%	35.8%	11.9%	14.2%
	夫婦二人世帯	58	80.7%	21.1%	5.3%	5.3%
	子と同居	59	80.0%	15.0%	1.7%	1.7%
	子・孫と同居	36	83.8%	32.4%	0.0%	2.7%
	その他	10	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%

注）クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した.

7）生活満足度

- 自分の生活について「非常に満足」が 15.4%、「まあまあ満足」が 60.3%、「どちらともいえない」が 10.9%、「あまり満足していない」が 10.4%、「まったく満足していない」が 2.3%であった。
- 性別では、生活満足度に大きな違いはなかった。
- 年齢階級別では、年齢階級が高くなるに従って生活満足度が高くなっており、「非常に満足」と「まあまあ満足」の合計割合は、「65～74 歳」では 63.4%であったが、「85 歳以上」では 80.9%であった。
- 認定状況については、「非常に／まあまあ満足」の割合は、「要支援１」では 80.0%、「要支援２」では 69.0%であった。
- 所得段階別では、段階が高い人で生活満足度が高いというわけではなかった。
- 住居形態では、「非常に／まあまあ満足」の割合は、「借家」では 63.2%で、「持家」75.8%や「公営住宅」78.0%と比較して低かった。
- 世帯構成別では、「夫婦二人世帯」や「子と同居世帯」で生活満足度は高く、「非常に／まあまあ満足」という人がいずれも８割程度いた。

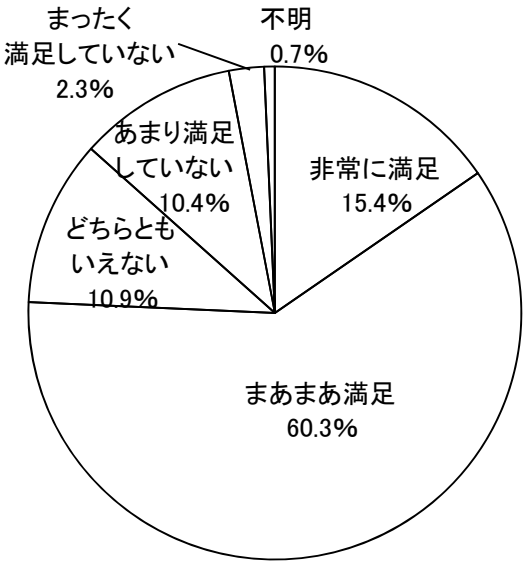

図 2-6-9 要支援認定者の生活満足度

注）本人回答に限定

表 2-6-9 要支援認定者の生活満足度

		人数	非常に/まあまあ満足している	どちらともいえない	あまり/まったく満足していない	不明
総　数		298	75.8%	10.9%	12.7%	0.7%
性別	男性	90	73.6%	11.0%	14.3%	1.1%
	女性	209	76.4%	11.1%	12.0%	0.5%
年齢階級	65～74 歳	41	63.4%	17.1%	17.1%	2.4%
	75～84 歳	146	75.5%	8.8%	15.0%	0.7%
	85 歳以上	110	80.9%	10.9%	8.2%	0.0%
認定状況	要支援 1	185	80.0%	7.6%	11.9%	0.5%
	要支援 2	113	69.0%	15.9%	14.2%	0.9%
所得段階	第 1～3 段階	142	72.0%	14.0%	13.3%	0.7%
	第 4～5 段階	71	84.5%	7.0%	8.5%	0.0%
	第 6 段階～	86	75.3%	8.2%	15.3%	1.2%
住居形態	持家	213	75.8%	10.9%	12.8%	0.5%
	借家	19	63.2%	5.3%	26.3%	5.3%
	公営住宅	59	78.0%	13.6%	8.5%	0.0%
	その他	8	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
世帯構成	単身世帯	134	73.3%	12.6%	13.3%	0.7%
	夫婦二人世帯	58	80.7%	8.8%	8.8%	1.8%
	子と同居	59	81.4%	8.5%	10.2%	0.0%
	子・孫と同居	36	73.0%	13.5%	13.5%	0.0%
	その他	10	63.6%	0.0%	36.4%	0.0%

注）クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した.

８）生活上の不安

- 生活上の不安として最も多くの人が指摘していたのは、「ねたきりや認知症になること」であり、「大いに不安」と「まあまあ不安」の合計割合は 61.8％であった。次いで多かったのが、「急な体調不良時に対応してくれる人がいない」ことであり、「大いに／まあまあ不安」の割合は 45.4％であった。以下では、不安の訴えが多い上位 4 項目（「寝たきりや認知症になること」「急な体調不良時に対応してくれる人がいない」「十分な介護サービスが受けられない」「十分な医療が受けられない」）について、特性との関連を調べた。
- 性別では、女性では男性と比較して、「寝たきりや認知症になること」や「十分な介護サービスが受けられないこと」「十分な医療が受けられないこと」に対する不安の訴える割合が多かった。
- 年齢階級別では、4 項目すべてについて「65～74 歳」では「85 歳以上」と比較して、不安を訴える割合が高かった。
- 認定状況については、「十分な介護サービスが受けられない」「十分な医療が受けられない」に関して、「要支援２」の方が「要支援１」と比較して訴えが多かった。
- 所得段階別では、「急な体調不良時に対応してくれる人がいない」について、所得段階が低いほど不安を訴える割合が高かった。
- 住居形態では、「急な体調不良時に対応してくれる人がいない」に関して、「借家」の人で不安を訴える割合が高かった。
- 世帯構成別では、「急な体調不良時に対応してくれる人がいない」に関して「単身世帯」では他の世帯よりも不安を訴える割合が高かった。

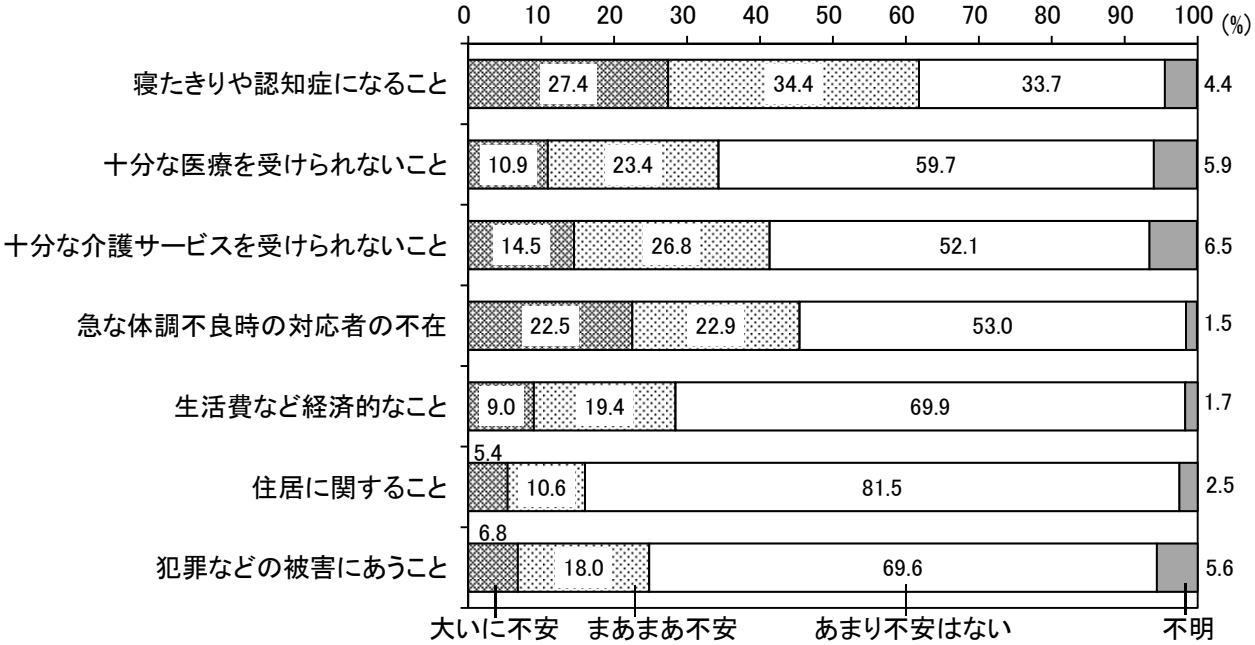

図 2-6-10　要支援認定者の生活上の不安

注）本人回答に限定

表 2-6-10 要支援認定者の生活上の不安

		人数	認知症や寝たきりになること	急な体調不良時の対応	十分な介護サービスを受けられない	十分な医療が受けられない
総　数		298	61.9%	45.4%	41.3%	34.4%
性別	男性	90	51.1%	45.1%	37.8%	29.7%
	女性	209	66.7%	45.7%	42.8%	36.5%
年齢階級	65～74 歳	41	65.9%	51.2%	56.1%	51.2%
	75～84 歳	146	67.6%	51.4%	44.9%	34.7%
	85 歳以上	110	52.7%	35.5%	30.9%	27.9%
認定状況	要支援 1	185	62.7%	46.2%	37.8%	30.3%
	要支援 2	113	60.5%	44.2%	46.5%	40.7%
所得段階	第 1～3 段階	142	59.9%	50.7%	42.3%	37.8%
	第 4～5 段階	71	67.6%	42.3%	37.1%	31.0%
	第 6 段階～	86	60.0%	39.5%	42.4%	31.8%
住居形態	持家	213	60.4%	44.3%	41.0%	33.0%
	借家	19	68.4%	73.7%	42.1%	40.0%
	公営住宅	59	62.7%	45.8%	45.8%	40.7%
	その他	8	75.0%	0.0%	12.5%	12.5%
世帯構成	単身世帯	134	59.3%	53.3%	40.0%	35.1%
	夫婦二人世帯	58	61.4%	36.8%	40.4%	24.6%
	子と同居	59	70.0%	48.3%	50.0%	40.0%
	子・孫と同居	36	62.2%	21.6%	32.4%	30.6%
	その他	10	54.5%	63.6%	45.5%	50.0%

注 1)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した.

注 2)不明も割合を算出するときの分母に含めている.

注3)不安の割合が多かった4項目のみを取り上げた.

９）暮らし向き

- 暮らし向きについて質問したところ、「かなり苦しい」が 3.0%、「やや苦しい」が 10.4%、「ふつう」が 71.4%、「やや余裕がある」が 10.4%、「余裕がある」が 3.8%であった。
- 「かなり苦しい」と「やや苦しい」の合計割合は、男性の方が女性よりも 10 ポイント程度高かった。
- 年齢階級別では、「かなり／やや苦しい」の割合は、「65～74 歳」では 37.5%であったが、「85 歳以上」では 8.2%で、大きな差があった。
- 認定状況については、暮らし向きに大きな差はなかった。
- 所得段階別では、「かなり／やや苦しい」の割合は、「第 1～3 段階」では 18.4%、「第 6 段階以上」では 11.6%で、所得が低い人で経済的に苦しいとの訴えが多い傾向があった。
- 住居形態では、「かなり／やや苦しい」の割合は、「借家」の人では 31.6%、「持家」の人では 9.0%で、3 倍の開きがあった。
- 世帯構成別では、「かなり／やや苦しい」の割合は、「単身世帯」で、他の世帯と比較して高い傾向がみられた。

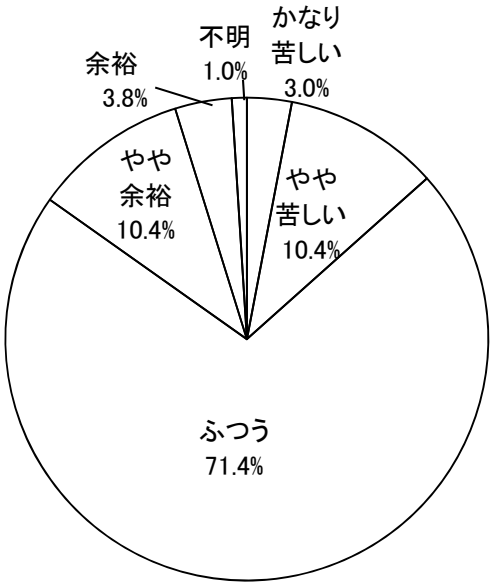

図 2-6-11　要支援認定者の暮らし向き

注）本人回答に限定

表 2-6-11　要支援認定者の暮らし向き

		人数	かなり苦しい やや苦しい	ふつう	余裕がある やや余裕	不明
総　数		298	13.4%	71.4%	14.2%	1.0%
性別	男性	90	20.0%	66.7%	13.3%	1.0%
	女性	209	10.6%	73.6%	14.4%	1.4%
年齢階級	65～74 歳	41	37.5%	55.0%	2.5%	5.0%
	75～84 歳	146	10.8%	76.4%	12.2%	0.7%
	85 歳以上	110	8.2%	70.9%	20.9%	0.0%
認定状況	要支援 1	185	11.9%	73.5%	14.6%	0.0%
	要支援 2	113	15.9%	68.1%	13.3%	2.7%
所得段階	第 1～3 段階	142	18.4%	70.9%	9.2%	1.4%
	第 4～5 段階	71	5.6%	73.2%	19.7%	1.4%
	第 6 段階～	86	11.6%	70.9%	17.4%	0.0%
住居形態	持家	213	9.0%	72.5%	17.5%	0.9%
	借家	19	31.6%	57.9%	5.3%	5.3%
	公営住宅	59	22.0%	71.2%	6.8%	0.0%
	その他	8	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%
世帯構成	単身世帯	134	17.2%	70.1%	11.9%	0.7%
	夫婦二人世帯	58	10.5%	78.9%	8.8%	1.8%
	子と同居	59	15.0%	66.7%	18.3%	0.0%
	子・孫と同居	36	5.4%	62.2%	29.7%	2.7%
	その他	10	17.2%	70.1%	11.9%	0.7%

注）クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した.